

おわりに

本モノグラフでは、10年間以上継続して兵庫県森林動物研究センターが収集してきた2つのデータ（鳥獣害アンケートと出猟カレンダー）の内容を整理・地図化し、イノシシとシカについては環境要因との関係・柵設置事業との関係を分析することができました。これらは兵庫県内の農家・行政関係者の協力がなければ到底得ることができなかったデータです。鳥獣害アンケートの収集に関しては、各獣種の被害やその対策を中心に数十の細かな項目を毎年集落の代表者に記入していただきました。アンケートの配布と収集、周知には各市町の鳥獣担当者に協力いただきました。また、出猟カレンダーとして、約6700名の狩猟者に捕獲場所・捕獲数だけではなく、目撃数やわな設置日と回収日の記録をしていただき、被害分析や個体数推定の元データを蓄積することができています。配布・収集には各農林事務所の担当者の方々に協力いただきました。この場をお借りして、関係したすべての方々に感謝申し上げます。この鳥獣害アンケートと出猟カレンダーは今後も兵庫県内の野生動物の生息や被害の動向を把握するために、内容を適時見直して継続していきますので、今後ともご協力を願います。

この鳥獣害アンケートと出猟カレンダーの膨大なデータはこれまでモノグラフや研究の基礎データとして分析させていただいてきましたが、すべての項目を分析し、対策に活用しきれられていたわけではありません。本モノグラフで項目を整理することができたので、今後はさらに各項目の分析を進めていきたいと思えます。また、近年では、分析の元となった一次データを公表することで、広い視点からの研究の促進や公共サービスの効率化を図る、「オープンデータ」の取り組みが推進されており、広く活用できる形でデータを整理・公開をしていきたいと思っております。

これからの課題として、本モノグラフでの分析結果により、鳥獣害アンケートと出猟カレンダーのデータと合わせ、今後収集・分析すべき項目が抽出できました。つまり、3章で分析した農業被害と密度・環境の関係では、これまで詳細な捕獲場所や捕獲効率のデータが整理されていない有害捕獲の必要性和、3・4章でそれぞれ言及された防護柵データの整備です。この2つの項目を追加・分析することで、対策を講じているにも関わらず、被害が軽減されない地域への対策強化と、被害が拡大している地域に対する対策の導入など、さらに地域や集落ごとの細やかな対策へとつなげていきたいと思えます。

責任編集者 山端直人・高木俊・栗山武夫

兵庫ワイルドライフモノグラフ 10 号

兵庫県の大型・中型野生動物の生息状況と農業被害
～鳥獣害アンケートと出猟カレンダーの分析～

2018 年 3 月 30 日 印刷

2018 年 3 月 30 日 発行

編集・発行 兵庫県森林動物研究センター
〒669-3842 兵庫県丹波市青垣町沢野 940
印刷 きくもとグラフィックス株式会社